

どら猫の活用

- ・何かあった場合必ずスイッチを押す。
ヒヤリハットを記録する習慣を付ける
(たとえ記録されなかったとしても)
ウインカー・ブレーキ・車速などの情報が記録されているので。

次のような場合も必ず押す。

例1

路地を左折時に左後輪がへいに接触した事故
前方の状況は事故に直接関係ない為、記録スイッチを押さなかった。
また、衝撃も少なくスイッチが作動しなかった。

- ・この事故でどら猫を記録した場合次のような事が解る。
ハンドルを切るタイミング・クルマ前方の間隔
車速、どの時点で接触に気付いたか。接触した壁以外に運転手の気を引くような
障害物が無いか・・・など。

例2

集積所にバックで付ける際に、集積所に接触。
バック時なので前方は事故に関係ないため記録スイッチを押さなかった。
また、衝撃も少なくスイッチが作動しなかった

- ・この事故でどら猫を記録した場合次のような事が解る。
どの時点でブレーキを踏んだか(ブレーキを踏んだ位置で、ストップが掛かったか、
気付いたか)・クルマの車速・逆光により視界が悪くなかったか
バック時にクルマ後方以外に、注意をそらす物の有り無し。

例3

自車が停止中、後方より軽く追突もしくは、斜め後方を引っかけられた。
自車が停止中の為、また、カメラの死角のため記録スイッチを押さなかった。
または、衝撃が少なくスイッチが作動しなかった。

- ・この事故でどら猫を記録した場合次の事が解る。
自車の完全停止。フットブレーキで停止していたか、サイドブレーキで停止していたか。
相手が、とぼけた場合「こちらのクルマが動いてきたなど」記録している事によって、
もめた場合こちらの言い分が正しいという事の証明になる。
どのタイミングで接触されたか、「クルマが少しでも揺れれば解る。」
揺れなどが、記録されていない場合でも時間や辺りの状況が記録されているので
手がかりがつかみやすい(相手との食い違い)

「ヒヤリハットを記録するように」と朝礼などで言うと「ヒヤリハットする事が無い」と言う人もいますが。自分の車だけでは無く、前方を走っている車が事故を起こしそうになったや、対向車が事故を起こしそうになった。

前方を走っている車が運転マナーが悪い・対向車のマナーが悪いなど

すべて、ヒヤリハットにつながります。日頃からスイッチを押す癖を付けて下さい。

※ヒヤリハットでは無くても、もどんどん押して下さい。

※助手の方も「今の取らなくて良いのですか？」など声をかけるようにして下さい。

事故対策班は、事故対策時にどら猫画像の有り無しを確認し記録

無しの場合、理由を明確に記録する事をお願いします。

会社で、ドライブレコーダを付けた意味を各自しっかりと自覚して下さい。

また、ヒヤリハットを記録した事によりペナルティーが発生する訳では無く

逆に日頃から細かい事に気を配り安全運転をしていると、会社は判断していますので積極的にスイッチを押し、どら猫を活用して下さい。

現在、事故を起こした場合、給料面のペナルティーは有りませんが…

この先どうなるか解りません。また、会社自体それを望んではいません。

一人一人が、どら猫を活用する事で少しでも事故に対して真剣に取り組んで行く事が会社のためになり、個人（社員各自）のためになりますので宜しくをお願いします。